

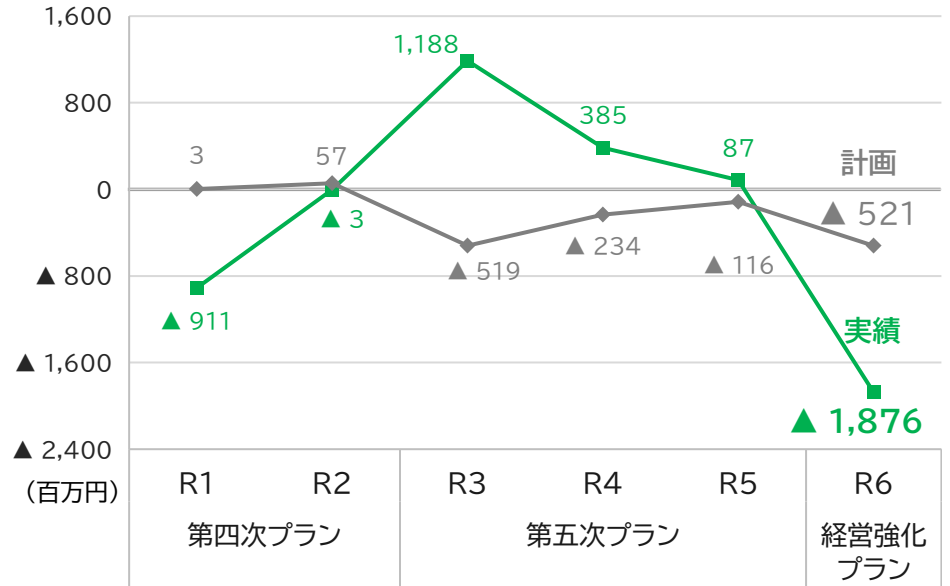
1. 経常収支の推移

▶ 約18億7千6百万円の経常赤字

(前年度比: ▲約19億6千3百万円)

▶ プランとの比較 約13億5千4百万円の未達

- コロナ補助金の減少、人件費増、物価高騰に伴う費用の増加により経常収支は大きく減少



経常収入・経常支出の推移

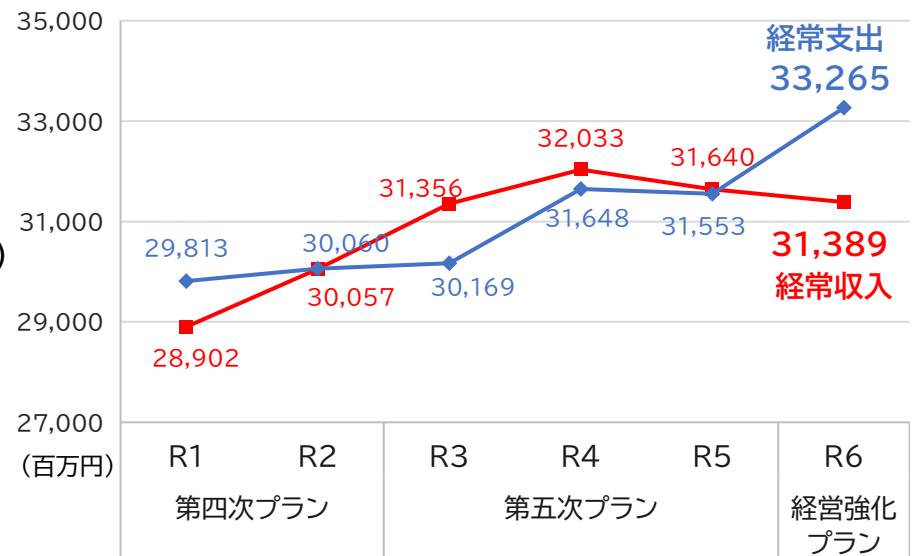
経常収入

約313億8千9百万円 (前年度比: ▲約2億5千百万円)

経常支出

約332億6千5百万円 (前年度比: +約17億1千2百万円)

- 医業収益が増加(前年度比: +約7億9千8百万円)
- 補助金収入(主にコロナ関連)が減少(前年度比: ▲約12億6千4百万円)
- 医業費用のうち給与費・材料費・経費が増加。特に給与費が大幅に増(前年度比: +約11億1千万円、+8.2%)



群馬県県立病院経営強化プラン(令和6年度)の取組状況(病院事業合計)

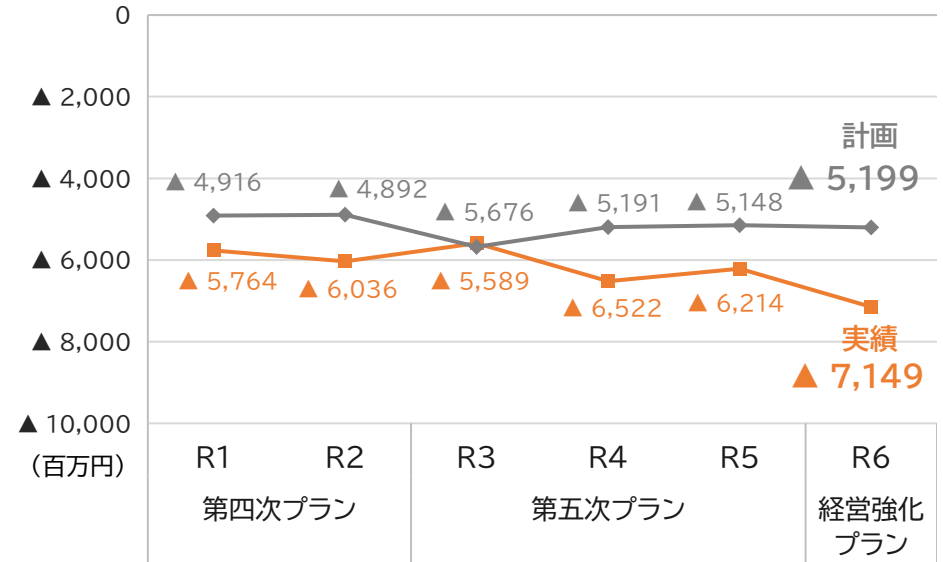
2. 医業収支の推移

▶ 約71億4千9百万円の赤字

(前年度比: ▲約9億3千5百万円)

▶ プランとの比較 約19億5千万円の未達

- 4病院全てで前年に比べて医業収支が減少
- 医業収益の増を上回る医業費用の増により、医業収支が悪化



医業収益・医業費用の推移

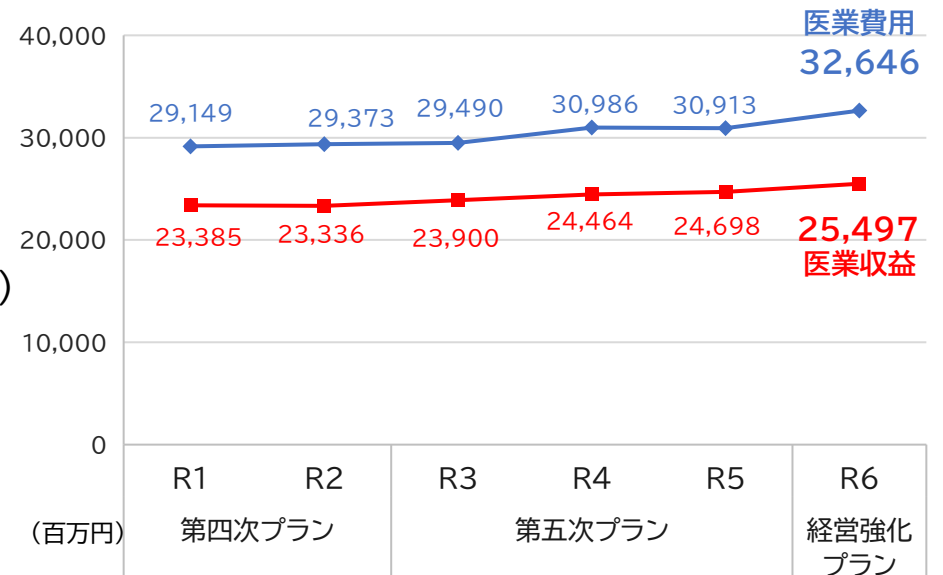
医業収益

約254億9千7百万円(前年度比: +約7億9千9百万円)

医業費用

約326億4千6百万円(前年度比: +約17億3千3百万円)

- 入院、外来とも患者数が増加し、1人あたり診療単価も増加したことにより医業収益は増加
- 給与費の増、物価高騰に伴う材料費、経費の増加により医業費用が増加



群馬県県立病院経営強化プラン(令和6年度)の取組状況(病院事業合計)

3. 入院収益・外来収益・患者数の推移

入院収益 約175億1千百万円
(前年度比: +約6億3千3百万円)

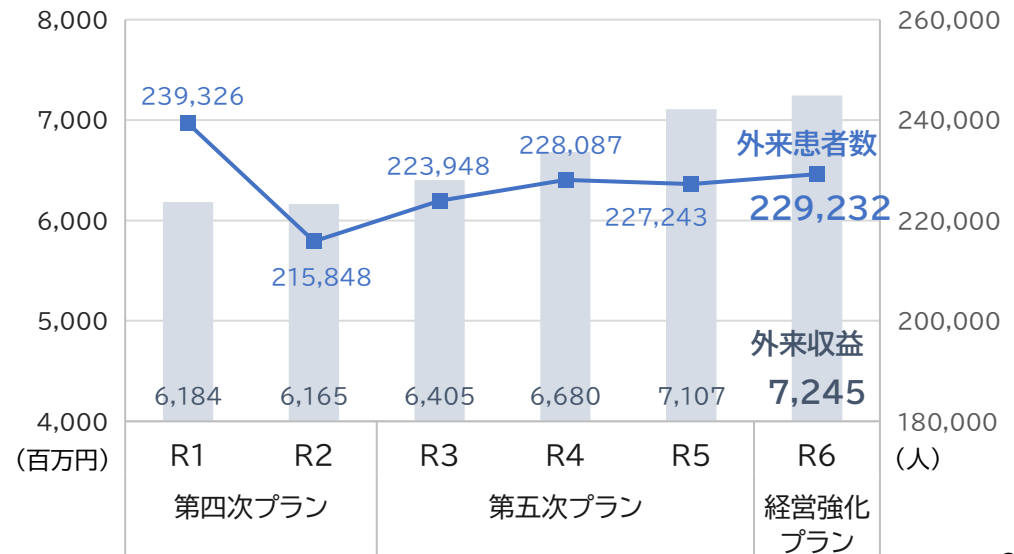
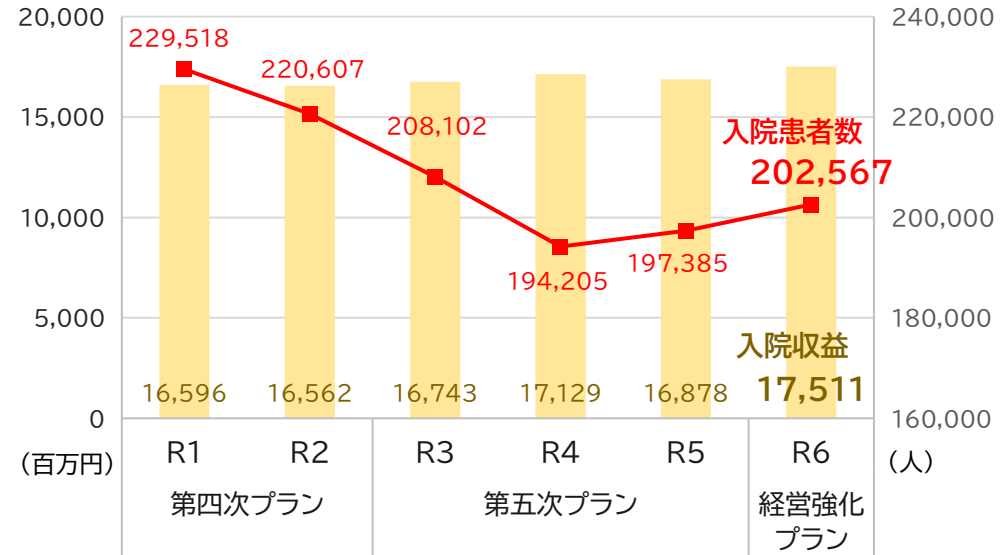
入院患者数 202,567人
(前年度比: +5,182人)

- 入院患者は、小児医療センターを除く3病院で増加。小児医療センターは新規入院患者は増加しているが、平均在院日数が減少。
- 入院収益は心臓血管センター、がんセンターが増加し、精神医療センター、小児医療センターはほぼ横ばい。

外来収益 約72億4千5百万円
(前年度比: +約1億3千8百万円)

外来患者数 229,232人
(前年度比: +1,989人)

- 外来患者については、がんセンター、小児医療センターで増加し、心臓血管センター、精神医療センターで減少
- 外来収益はがんセンター、小児医療センターで増加し、心臓血管センター、精神医療センターは減少。



群馬県県立病院経営強化プラン(令和6年度)の取組状況(病院事業合計)

4. 費用の推移

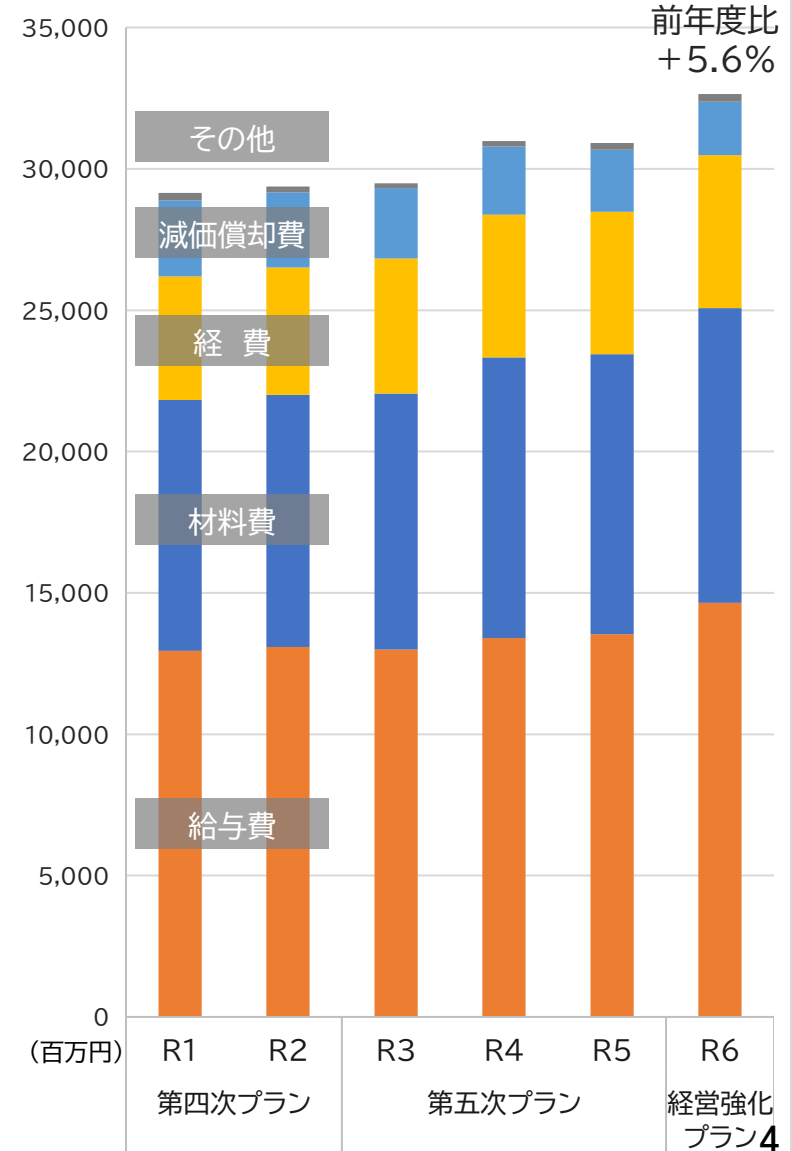
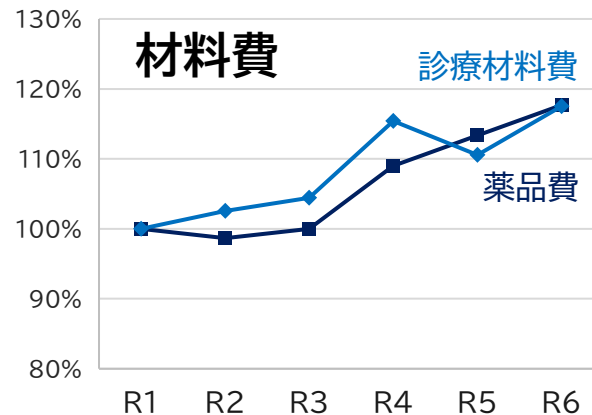
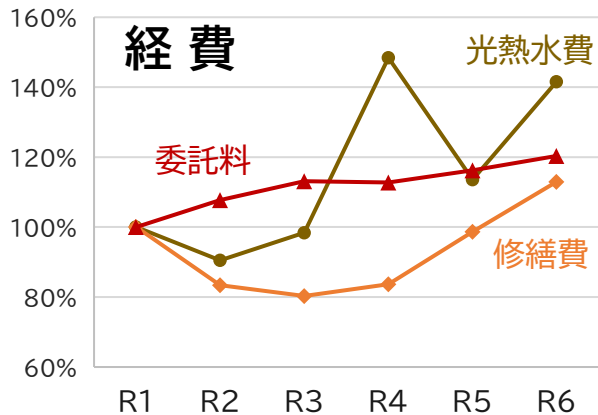
【経費】

- 燃料費価格の上昇などにより光熱水費が増加
- 人件費や資材費の高騰により委託料、修繕費が増加

【材料費】

- 薬品費はがんセンターでの高額な抗がん剤使用等に伴い増加傾向
- 手術件数の増加等に伴い、診療材料費が増加

【参考】費用内訳の増減率



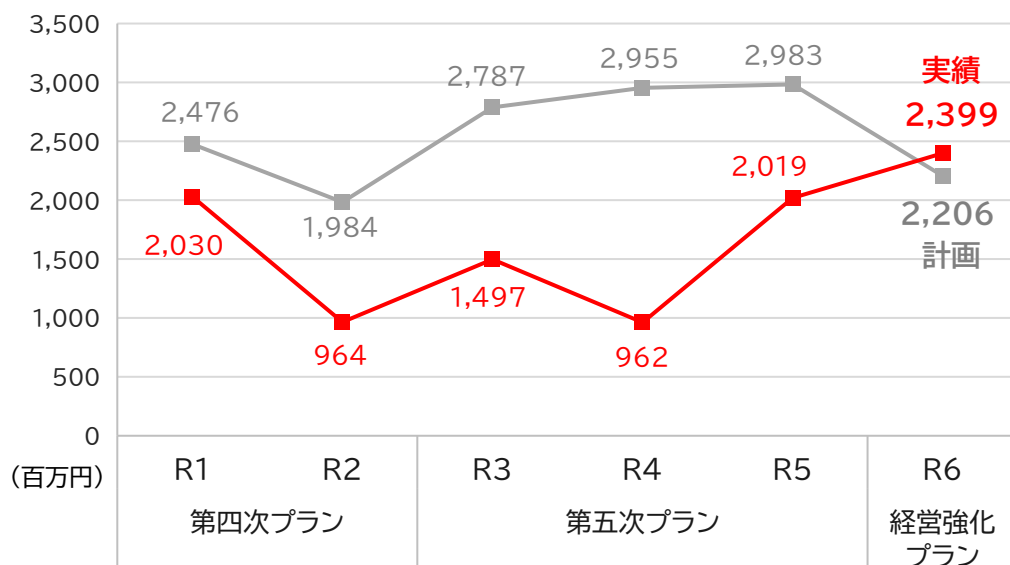
群馬県県立病院経営強化プラン(令和6年度)の取組状況(病院事業合計)

5. 建設改良費・修繕費

- 人件費や資材費の高騰、施設の老朽化、医療機器の価格高騰により建設改良費、修繕費は増加傾向
- 今後、投資効果の検証とともに、無駄を抑えた効率的な投資や長期的な投資計画が不可欠

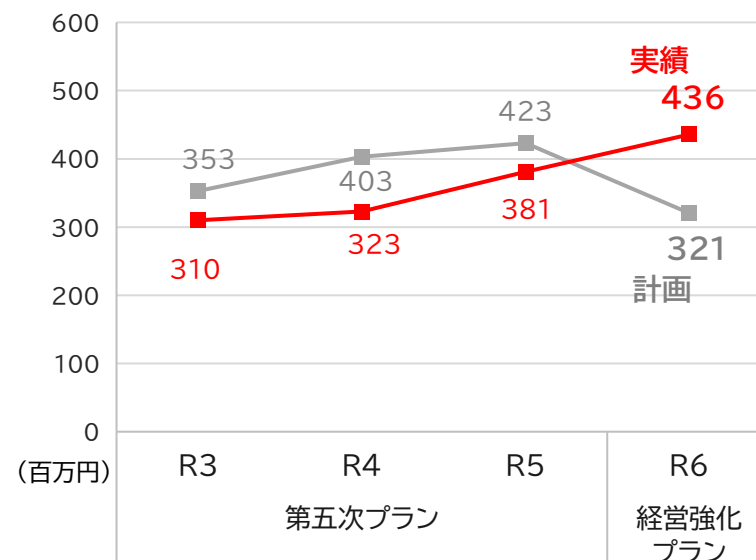
建設改良費(病院増改築費+資産購入費)

- 約23億9千9百万円
(前年度比: +約3億8千万円)
- プランとの比較
約1億9千3百万円の超過



修繕費

- 約4億3千6百万円
(前年度比: +約5千5百万円)
- プランとの比較
約1億1千5百万円の超過



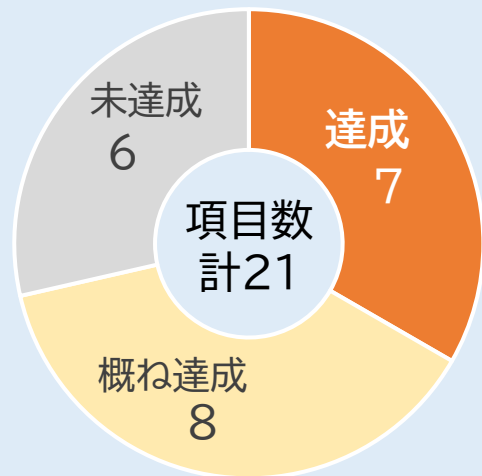
群馬県県立病院経営強化プラン(令和6年度)の取組結果について

○KPIについて(数値目標)

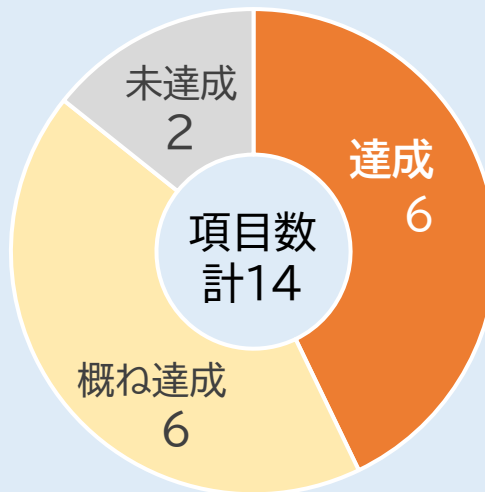
達成	目標を100%以上達成
概ね達成	目標を80%以上達成 または 進捗80%以上
未達成	目標達成割合 または 進捗割合が80%未満

○病院事業全体のKPI達成状況

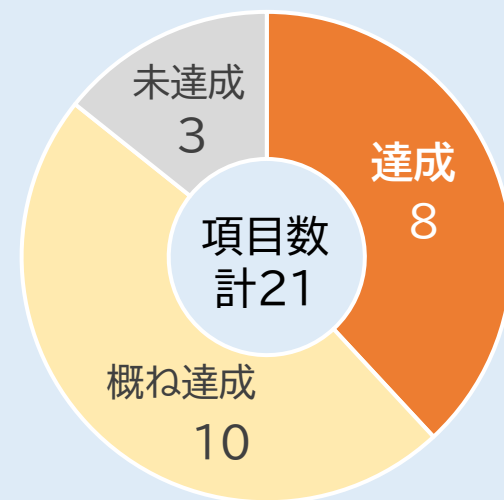
1. 県立病院としての機能強化



2. 群馬の医療を担う人材の確保と育成



3. 健全な経営



群馬県立病院経営強化プラン 令和6年度進捗管理<経営戦略課>

1. 県立病院としての機能強化

課題	アクションプラン	KPI(主な数値目標)		実績		達成状況	取組結果
—	担うべき機能やあり方に関する検討						「医療安全対策」 ・病院局医療安全管理委員会やGRM会議等を活用し、医療事故等の情報共有や改善案の検討などを継続的に実施した。 「情報セキュリティ対策の強化」 ・県の情報セキュリティポリシー及び「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン（厚生労働省）」に基づいてセキュリティ対策を図り、昨年度に引き続き、令和6年度に改定された「医療機関におけるサイバーセキュリティ対策チェックリスト」を用いて確認を行った。
—	医療安全対策及び感染対策の継続的な推進	ヒヤリ・ハット等発生報告に占める医師の報告率	5.5 %	実績 4.8%	達成率 87.3%	概ね達成	
—	情報セキュリティ対策の強化	情報セキュリティ対策の取組件数	4 件	実績 2件	達成率 50.0%	未達成	

2. 群馬の医療を担う人材の確保と育成

課題	アクションプラン	KPI(主な数値目標)		実績		達成状況	取組結果
若手・中堅医師、コメディカルの人材確保	医師・看護師等の確保の推進	職員採用試験の倍率	2.25 倍	実績 2.89倍	達成率 128.6%	達成	看護師の志望者増加に向けて、養成校を訪問したほか、看護師就職イベントへ出展し、県立病院の看護職の魅力等を周知した。また、薬剤師採用に向けてはオンライン説明会を行った。 11月にノンテクニカルスキル研修（基礎編）実施し、各病院内での周知を強化することで目標を達成することができた。
研修環境の整備、キャリア支援活動の実施	職員研修の充実	ノンテク研修（基礎編）受講者割合	38.0 %	実績 38.6%	達成率 101.6%	達成	
働き方改革への対応							

3. 健全な経営

課題	アクションプラン	KPI(主な数値目標)		実績		達成状況	取組結果
4病院のスケールメリットを生かした更なる経費の削減	医薬品・診療材料費等の費用削減	医薬品の薬価差益	700 百万円	実績 652百万円	達成率 93.1%	概ね達成	「医薬品・診療材料費等の費用削減」「4病院一括購入契約の推進」 ・医薬品については公立公的病院の購入価格の中の上を目指し、流通改善ガイドラインに基づき、単品総価交渉と単品単価交渉を織り交ぜながら交渉を行った。 ・診療材料については群馬大学と共同交渉を実施し、ベンチマークシステムにて他施設より高い品目に絞って交渉を行った。 ・消耗品購入についてもスケールメリットを生かし、4病院一括の年間契約とした。
	4病院一括購入契約の推進	消耗品の一括購入契約の対象品目数	200 件	実績 186件	進捗率 93.0%	概ね達成	
経営状況の的確な把握	月次経営分析の実施						「月次経営分析の実施」 ・各病院の状況をタイムリーに把握し、経営判断に生かした。
資金流失の抑制	投資の適正化						「投資の適正化」 ・病院ごとに施設・医療機器整備の投資上限額を設定。各病院の要望を踏まえ優先順位をつけ、より重要な施設・医療機器整備に必要な予算措置を行った。

(メモ)

1. 経常収支・医業収支の推移

経常収支

約4億6千8百万円の赤字 (前年度比:▲約4億6千百万円)

プランとの比較 約3億6千4百万円の未達

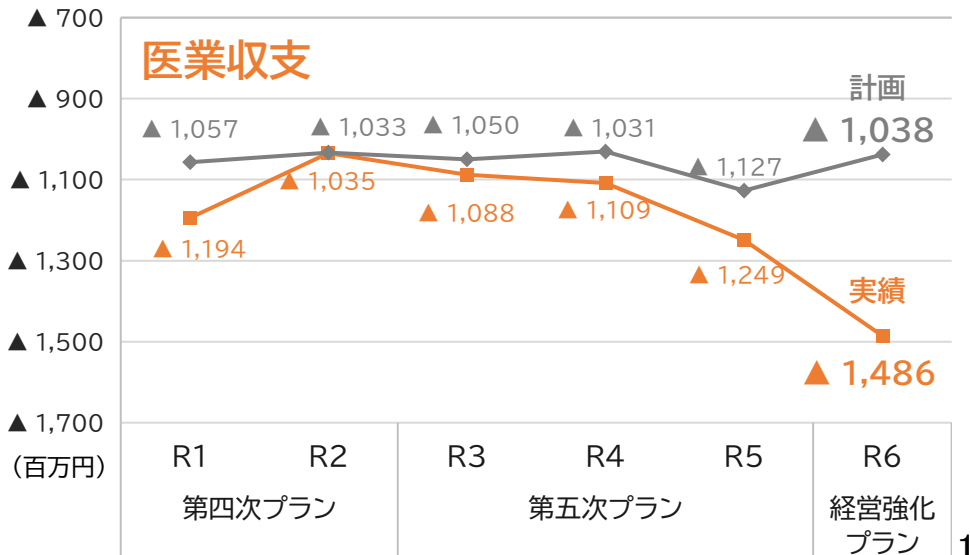
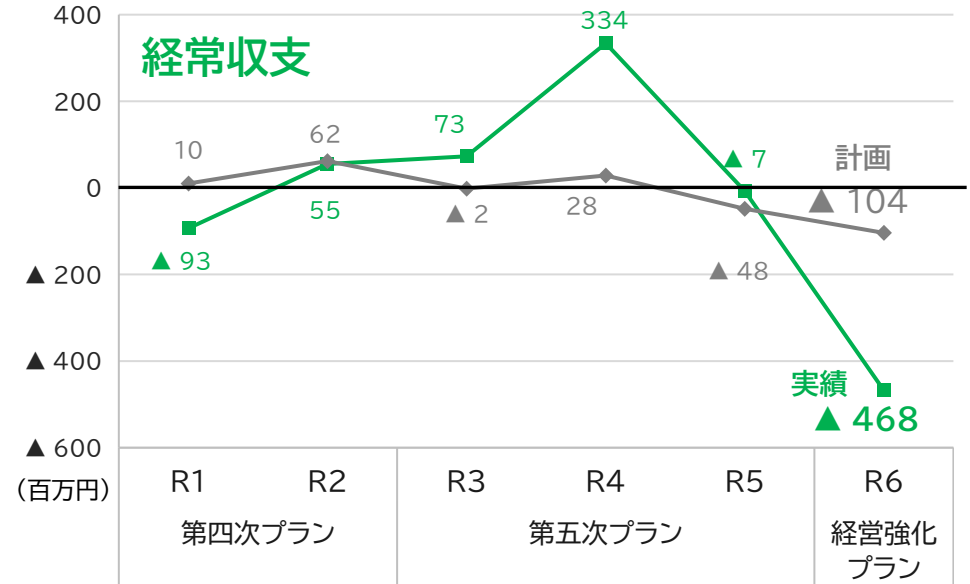
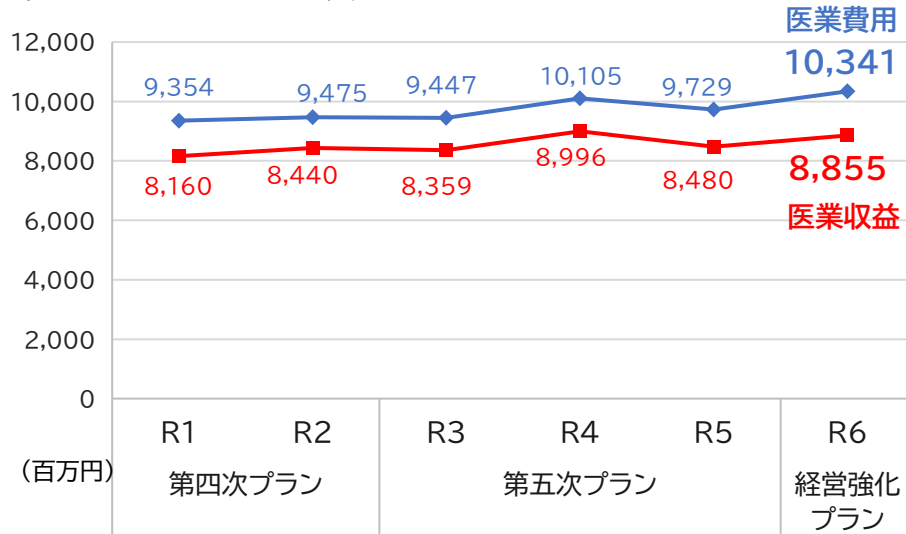
医業収支

約14億8千6百万円の赤字(前年度比:▲約2億3千7百万円)

プランとの比較 約4億4千8百万円の未達

- 経常収支はコロナ対策補助金の終了などによる医業外収益の減少により赤字となった。
- 医業収支は給与費や材料費などの増による医業費用の増加が、医業収益の増加を上回ったため赤字となった。

<参考> 医業収益・医業費用



群馬県県立病院経営強化プラン(令和6年度)の取組状況(心臓血管センター)

2. 入院収益・外来収益・患者数の推移

入院収益 約78億7千6百万円
(前年度比: +約4億1千2百万円)

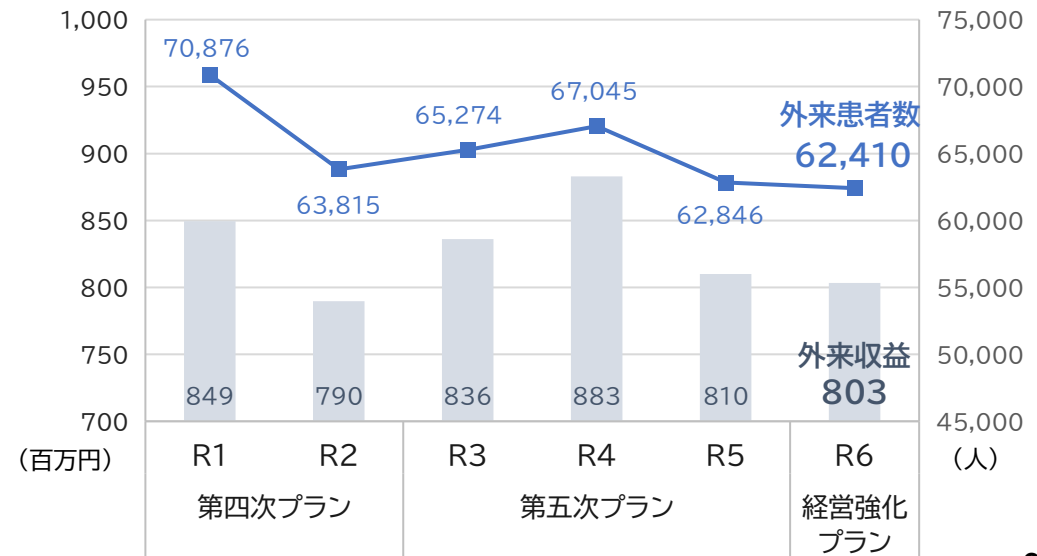
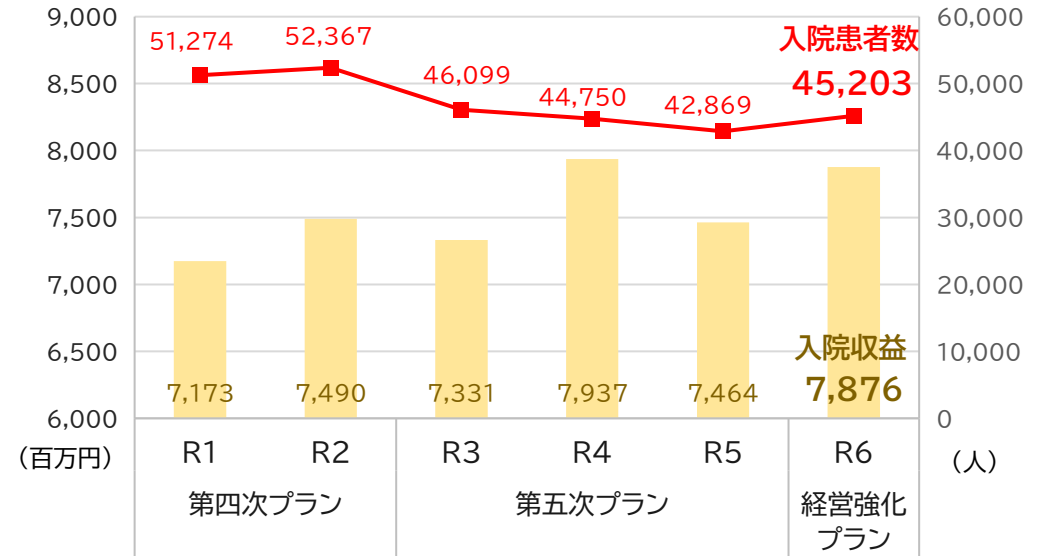
入院患者数 45,203人
(前年度比: +2,334人)

- 入院患者数は前年度の工事による入院制限等による減少分が回復したことなどにより増加した。
- 入院患者数や手術件数の増により、入院収益は増加した。

外来収益 約8億3百万円
(前年度比: ▲約7百万円)

外来患者数 62,410人
(前年度比: ▲436人)

- 外来患者数は診療科毎に増減があり、全体では前年度よりも減少した。
- 外来患者数の減により、外来収益は減少した。



群馬県立病院経営強化プラン 令和6年度進捗管理<心臓血管センター>

1. 県立病院としての機能強化

課題	アクションプラン	KPI(主な数値目標)		実績		達成状況	取組結果
				実績	進捗率		
患者ニーズに対応する高度・先進医療の検討	患者に寄り添った医療提供	新規入院患者数	4,742 人	実績	4,821人	達成	【新規入院患者・地域連携】 新規入院患者数については、12月達成率76.1%(75%以上)、3月達成率101.7%(100%以上)と、ほぼ目標通りの患者数を確保している。 紹介率については、ほぼ目標前後の達成率となったが、逆紹介率については140%前後と高い水準にはあるものの、目標には達しなかった。
				進捗率	101.7%		
地域の病院・診療所とのより強固な関係性の構築、連携手法の構築	地域連携の更なる強化	紹介率	84.4 %	実績	83.1%	概ね達成	【医療安全】 ・インシデント報告数に対する確認不足事例割合が昨年55%であり、R6年度は54.9%でほぼ変化ないが、数値目標をR6年度50%にしているため、達成率は91.5%となった。 ・医療安全に対する意識向上、多職種連携によるチーム医療を推進するため、研修の機会を設け、多職種カンファレンス・合併症カンファレンスの開催を行った。
				達成率	98.5%		
		逆紹介率	188.0 %	実績	140.7%	未達成	
				達成率	74.8%		
医療事故を未然に防ぐ取組の強化	医療安全の徹底 医療安全・感染管理の可視化	インシデント報告数に対する確認不足事例割合	50.0 %	実績	54.9%	概ね達成	
				達成率	91.5%		

2. 群馬の医療を担う人材の確保と育成

課題	アクションプラン	KPI(主な数値目標)		実績		達成状況	取組結果
				実績	進捗率		
関係各方面に向けた情報提供不足	大学医局等との連携強化	病院HP閲覧数	135,000 回	実績	124,772回	概ね達成	【大学医局等との連携強化】 ・医師、看護師等の医療スタッフ確保のため、HPについては各部門と連携し症例件数の実績や取り組み等を随時掲載し、概ね目標を達成した。 ・また院長及び幹部職員が大学医局等へ訪問を行うとともに、学会や医師派遣等の機会を捉え、他病院等の幹部職員や若手職員にPRを行った。
				進捗率	92.4%		
後期研修医や専修医などの県内外からの受入れ 長期にわたる専門的な育成	若手・中間層の医療スタッフの確保 医療スタッフの育成	後期研修医・専修医受入人数	14 人	実績	12人	概ね達成	【若手・中間層の医療スタッフの確保・医療スタッフの育成】 ・R6.4時点の後期研修医・専修医は13名で、5月に1名受入れがあり、実人員目標14人は達成した。しかしながら、10・11月に研修修了等で4名減少し、その後の新規受入がなかったため、延べ人数では85.7%の達成となった。 ・医師、看護師、コメディカルの養成校からの実習生受け入れについては、14校から310名を受け入れ、年度末時点で91.2%と概ね目標は達成できた。
				進捗率	85.7%		
		実習生受入人数	340 人	実績	310人	概ね達成	
				進捗率	91.2%		
働き方改革への対応							

群馬県立病院経営強化プラン 令和6年度進捗管理<心臓血管センター>

3. 健全な経営

課題	アクションプラン	KPI(主な数値目標)		実績		達成状況	取組結果
入院患者数の増加および病床利用率の向上	地域医療連携の強化・ベッドコントロール	新規入院患者数	4,742 人	実績	4,821人	達成	【入院患者数】 ・新規入院患者数については、3月達成率101.7%(100%以上)と、ほぼ目標通りの患者数を確保した。 【診療材料】 ・診療材料等委員会において、各部署によるサンプル使用などを実施した上で共同購入品への切替えを推進したが、年間達成率72.5%にとどまった。また、県立4病院等と連携した業者との価格交渉や病院独自の価格交渉を積極的に実施することにより材料費の価格上昇をできる限り抑えた。
				進捗率	101.7%		
		許可病床利用率(195床)	60.6 %	実績	63.5%	達成	
				達成率	104.8%		
		運用病床利用率(183床)	64.6 %	実績	67.7%	達成	
				達成率	104.8%		
全職員一丸で取り組む材料費の更なる削減	医療材料費削減	共同購入による診療材料費削減額	34,000 千円	実績	24,657千円	未達成	【経営状況】 ・管理運営会議において、毎月の経営状況を説明した。また、経営戦略会議でコンサルからの提案により収支改善策の取組などについて検討した。
				進捗率	72.5%		
全部門、全職員の経営参画意識の醸成	病院経営状況の周知	経常収支比率	98.9 %	実績	95.5%	概ね達成	
				達成率	96.6%		

4. 新たに挑戦するもの

項目	プラン説明文	進捗状況																		
維持透析患者へのTAVIの安全な導入	維持透析患者に対してTAVIの適応拡大が承認され、許可施設で同治療が行われることになり、当院はその施設の一つです。透析患者は動脈硬化を起こしやすいこともあり、大動脈弁狭窄症を患う方が一定数います。これまでは開胸による大動脈弁置換術しか行われませんでした。今回の適応拡大によって、より侵襲性の低いカテーテルによる治療が選択肢として加わったことは透析患者にとって画期的な福音です。しかしながら慢性透析患者は全身状態も悪く併存疾患も多いことから、TAVIの施行に際しても非常にハイリスクであり通常の症例に比較して重篤な合併症の発生率が高いことが報告されていることから、術中、術後管理も含めた安全な導入が期待されます。	令和6年4月から令和7年3月の間に、当院において計13名の維持透析患者に対し、経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）を施行しました。 入院中の透析回数は2～6回（平均2.9回）であり、術後の平均在院日数は6.8日（予定入院症例では5.3日）と、非透析患者と同等でした。 また、重篤な合併症は認められず、全例において良好な初期成功を得たうえで退院となりました。 本院における維持透析患者に対するTAVIは、安全に導入されており、良好な臨床成績を得ています。																		
パルスフィールドアブレーション	心房細動に対するカテーテルアブレーション治療の新しい治療法です。従来の高周波カテーテルアブレーション、クライオバルーンアブレーション、ホットバルーンアブレーションなどの治療法と異なり、「熱」をエネルギーとして用いないアブレーション治療です。そのため心臓の周囲の臓器（食道や肺）への合併症出現が非常に低くなります。心房細動アブレーション治療の合併症の出現確率を大幅に下げる画期的な治療法です。 本治療法は、新型コロナウイルス感染症の影響で導入が遅れていましたが、令和6年中には導入できるよう、引き続き挑戦していきます。	令和6年7月よりパルスフィールドアブレーションが開始となり、従来の高周波カテーテルアブレーション、クライオバルーンアブレーションと比較し、手技時間の短縮、安全性の向上が得られています。今後もパルスフィールドアブレーションが心房細動治療の主流になると考えられます。 R6年度パルスフィールドアブレーション手術件数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1件</td> <td>11件</td> <td>15件</td> <td>24件</td> <td>56件</td> <td>68件</td> <td>67件</td> <td>63件</td> <td>67件</td> </tr> </tbody> </table>	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	1件	11件	15件	24件	56件	68件	67件	63件	67件
7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月												
1件	11件	15件	24件	56件	68件	67件	63件	67件												
神経調節性失神治療	若年性における血管迷走神経性失神に対してカテーテルアブレーションで治療を行う新しい治療法です。従来難治性血管迷走神経性失神に対しては恒久式ペースメーカー植え込み術を行っています。しかし若年患者の場合、ペースメーカーの電池寿命の問題で複数回の交換手術が必要となります。カテーテルアブレーションによる血管迷走神経性失神に対する治療はペースメーカー植え込みを回避することが出来る可能性があり、若年性血管迷走神経性失神患者に対する画期的な治療法です。	現時点では治療の適応、保険収載、治療機器等の課題が多く、具体的な進捗がみられていない状況です。																		

群馬県県立病院経営強化プラン(令和6年度)の取組状況(がんセンター)

1. 経常収支・医業収支の推移

経常収支

約8億1千8百万円の赤字 (前年度比:▲約10億9千3百万円)

プランとの比較 約6億2千7百万円の未達

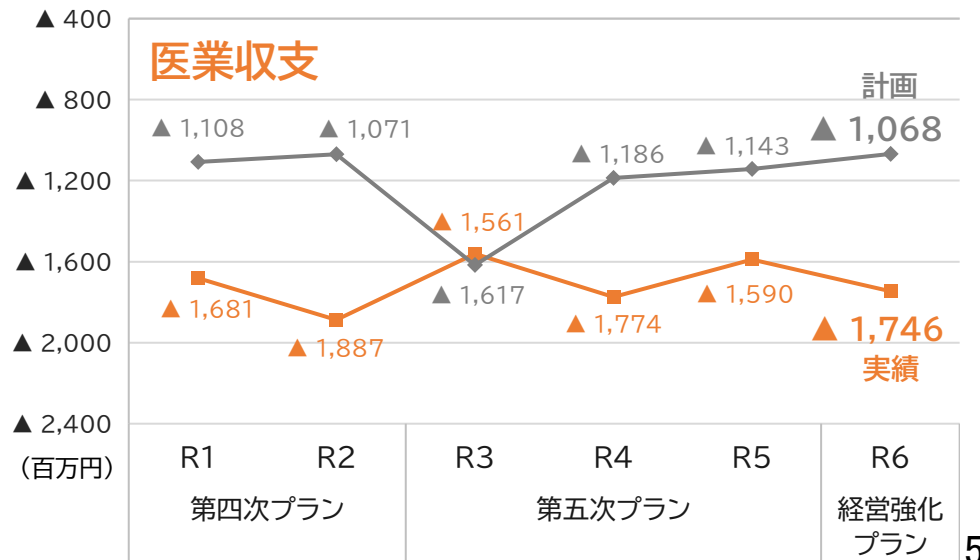
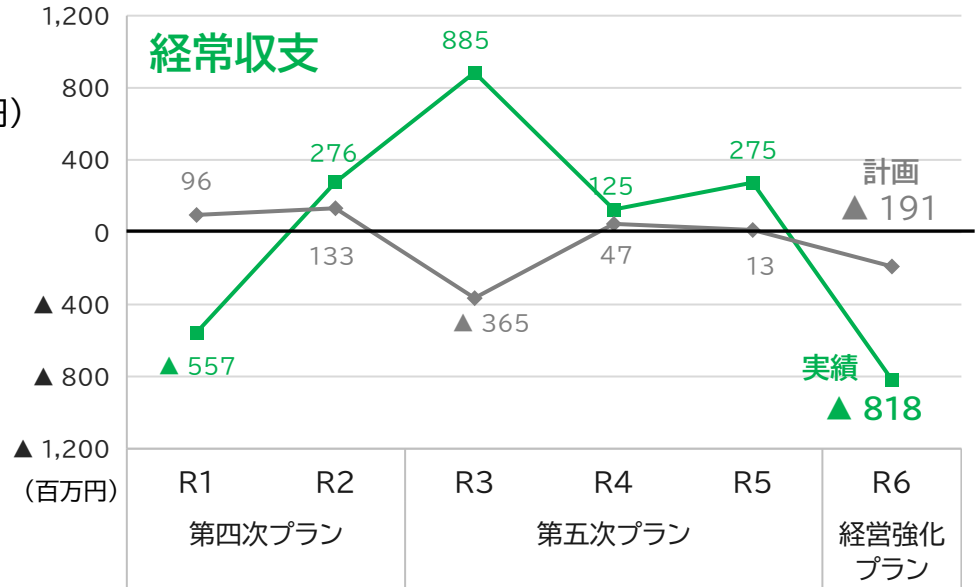
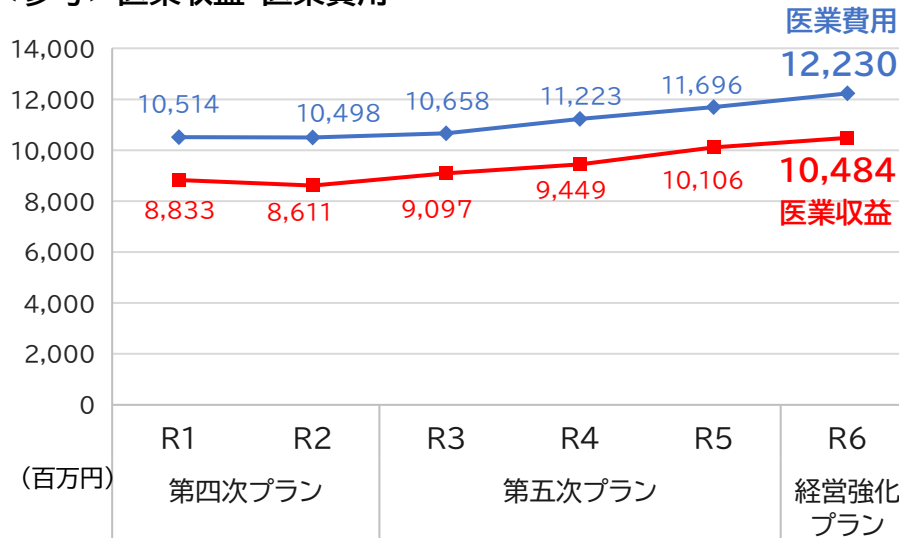
医業収支

約17億4千6百万円の赤字(前年度比:▲約1億5千6百万円)

プランとの比較 約6億7千8百万円の未達

- R6年度はR5年度に比べ、医業収益は順調に増加したが、医業外収益は大幅に減少した。
- R6年度はR5年度に比べ、費用は人件費増、物価高騰等により、医業収益増加の分を打ち消した。
- 主に外的要因により、5年ぶりの赤字決算となった。

<参考> 医業収益・医業費用



群馬県県立病院経営強化プラン(令和6年度)の取組状況(がんセンター)

2. 入院収益・外来収益・患者数の推移

入院収益 約47億4千4百万円
(前年度比: +約2億6千百万円)

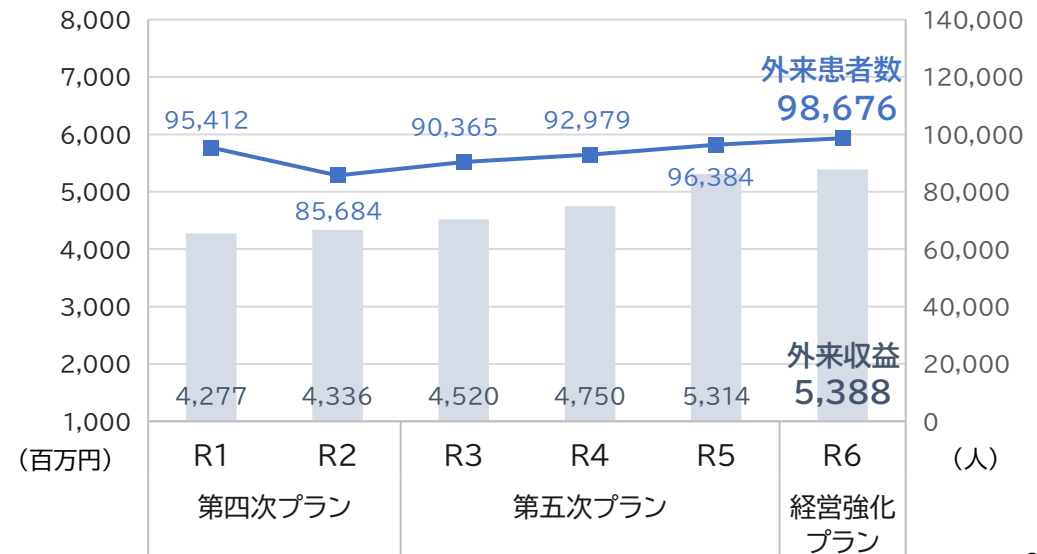
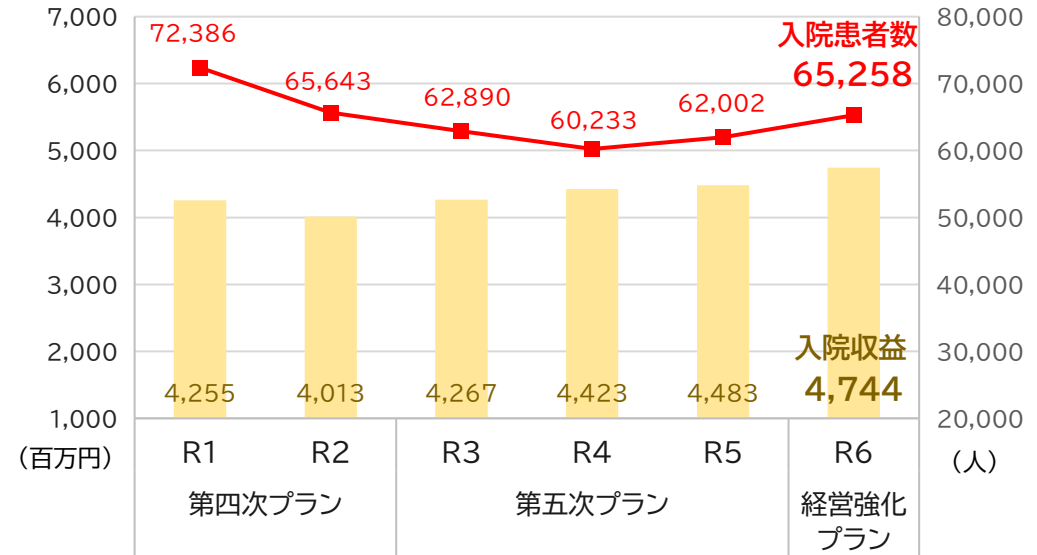
入院患者数 65,258人
(前年度比: +3,256人)

- 収益はR2年度を底に増加基調にある。患者数もR5年度から増加に転じた。
- 手術件数増等の現場の努力や、地道な地域連携施策が功を奏している。

外来収益 約53億8千8百万円
(前年度比: +約7千4百万円)

外来患者数 98,676人
(前年度比: +2,292人)

- 収益は一貫して増加基調にある。患者数もR3年度から増加に転じた。
- なお、化学療法の外来シフト等により、R元年度以降、入院収益<外来収益である。



群馬県立病院経営強化プラン 令和6年度進捗管理 <がんセンター>

1. 県立病院としての機能強化

課題	アクションプラン	KPI(主な数値目標)		実績		達成状況	取組結果
高度専門医療提供体制の強化・地域連携の強化	地域医療機関等との関係強化	地域医療機関等への訪問回数	260回	実績	192回	未達成	○「地域医療機関等への訪問回数」は、がん診療連携大会の案内等のため、10月、11月に集中的に訪問を行ったものの、1月、2月はインフルエンザ等の流行により訪問を控えることになり、最終的な達成率は73.8%にとどまった。 ○「地域連携バス算定件数」は277件で、達成率は98.9%となった。新規に開始する医療機関には説明の機会を設け、既存の医療機関からはバスに対するご意見を聴取することで、円滑な運用と着実な連携体制の強化につなげている。 ○ロボット支援手術症例数については、令和6年7月から2台体制となったことで、過去最多の手術件数となった。今後も実施診療科が増える見込であり、最先端ロボット2台を最大限利用した低侵襲手術を推進して、患者のQOL向上に努める。
				進捗率	73.8%		
		地域連携バス算定数	280回	実績	277回	概ね達成	
				進捗率	98.9%		
がん患者のQOLの向上	低侵襲手術の推進	ロボット支援手術症例数	260件	実績	269件	達成	
				進捗率	103.5%		
増加傾向にある外来部門の診療体制の逼迫	病棟・外来機能の見直し						

2. 群馬の医療を担う人材の確保と育成

課題	アクションプラン	KPI(主な数値目標)		実績		達成状況	取組結果
必要な資格・認定等の取得推進	研修の充実・強化	研修受講回数	1,350回	実績	2,063回	達成	○研修受講回数は、受講環境を整えたことで、目標回数1,300回を大きく上回る2,063回(対・目標値153%)となった。専門病院として、専門家(有資格者)の確保・育成は重要事項であり、引き続き職員が受講しやすい環境を整備していく。
				進捗率	152.8%		
	有資格者の確保育成	資格取得者(看護部)	19人	実績	17人	未達成	
				進捗率	89.5%		
専門医の確保とレジデント育成	大学病院等との連携						
働き方改革への対応							

群馬県立病院経営強化プラン 令和6年度進捗管理〈がんセンター〉

3. 健全な経営

課題	アクションプラン	KPI(主な数値目標)		実績		達成状況	取組結果
入院収益の改善	診療報酬の適切・確実な取得	入院単価	74,902 円	実績	72,671円	概ね達成	○入院単価は概ね達成することができた。要因の一つとして、毎月の各種加算算定について経営コンサルタントから指南を受けるなど、病院全体で加算取得に努めてきたことが挙げられる。
		手術件数	2,300 件	実績	2,287件		
入院患者数の減少	入院患者数の増加	運用病床利用率	70.0 %	実績	69.9%	概ね達成	○手術件数は概ね達成することができた。令和6年7月から2台体制となったロボット支援手術症例数の増も寄与している。 ○運用病床利用率は概ね達成することができた。患者数の実数も令和5年度から増加に転じており、入院単価の増と相まって入院収益は令和2年度以降増加傾向にある。
				達成率	99.9%		
費用の抑制	材料費の抑制	共同購入等による材料費削減額	69,414 千円	実績	39,829千円	未達成	○1階の入院支援センターと予診室を入替え、患者動線を改善するとともに、より高いプライバシー確保が求められる前者を個室ブース化できた。また、リネン庫を外来用に改装して限られたスペースを有効活用した。併せて、待合患者呼出システムを再整備し、よりスムーズに患者を案内できるようになった。
				進捗率	57.4%		
増加傾向にある外来部門の診療体制の逼迫	病棟・外来機能の見直し						

4. 新たに挑戦するもの

項目	プラン説明文	進捗状況
地域がん診療連携拠点病院の指定更新	当院では患者サロン開設・臨床倫理カンファレンス開催等を行い、地域がん診療連携拠点病院の指定を令和9年3月まで更新することができましたが、拠点病院の指定要件は年々ハードルが上がっており、次回指定の更新を受けることができるよう、今後必須化が見込まれる要件（wi-fi設置等）の充足について継続して取り組みます。	継続して患者サロン、臨床倫理カンファレンスの開催を行い、指定要件を充足できるように努めている。院内がん登録事務中級者が不在となり、要件が未充足の状態が一時的にあったが、がん登録室の職員が令和6年9月に中級者の認定を受けたことから、再度指定要件を充足した状態となっている。今後必須化が見込まれる要件の「wi-fi設置」については、令和6年度内に整備を完了した。
がんゲノム医療拠点病院	当院は「がんゲノム医療連携病院」に指定されていますが、がんゲノム医療を一層推進するため、常勤病理医の新たな採用やエキスパートパネル（専門家会議）の自施設で開催のための人材確保等必要な要件を満たすことにより、「がんゲノム医療拠点病院」の指定を目指します。	がんゲノム医療については、2019年の開始以来5年に渡り、600人以上の患者の対応を行っている。また、内部向けには医師等への講習を行うとともに、患者照会元医療機関を対象とした研修会を行い、当院及び周辺医療機関のゲノム医療に対する意識醸成を図っている。 しかし、現時点では、がんゲノム医療拠点病院への要件達成が困難であり、現状で拠点病院になることは難しいため、がんゲノム医療連携病院としてエキスパートパネルを実施できる医療機関となることを目指している。 連携病院としてのエキスパートパネルの実施要件は現在国立がんセンター中央病院で要件策定の検討を行っているところであり、当院でも検討に協力しているところである。

群馬県県立病院経営強化プラン(令和6年度)の取組状況(精神医療センター)

1. 経常収支・医業収支の推移

経常収支

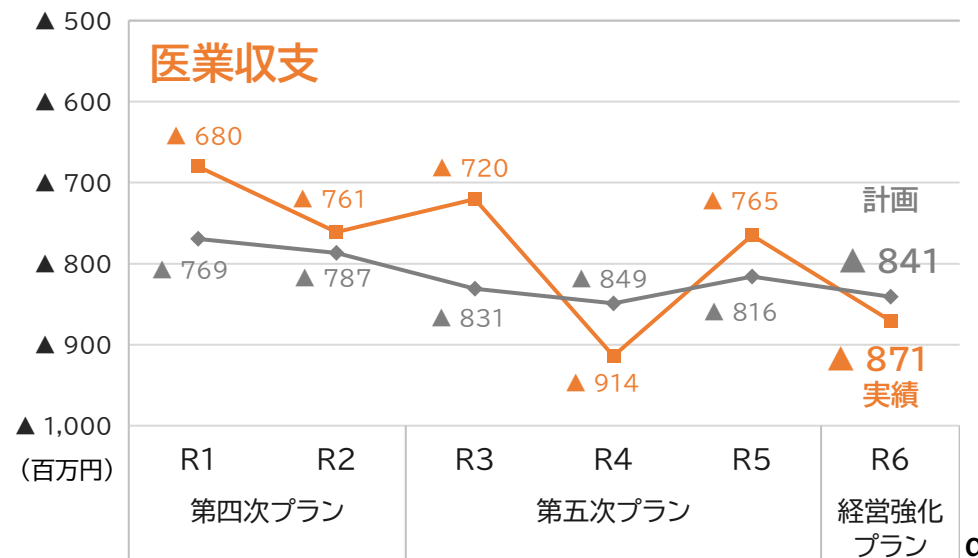
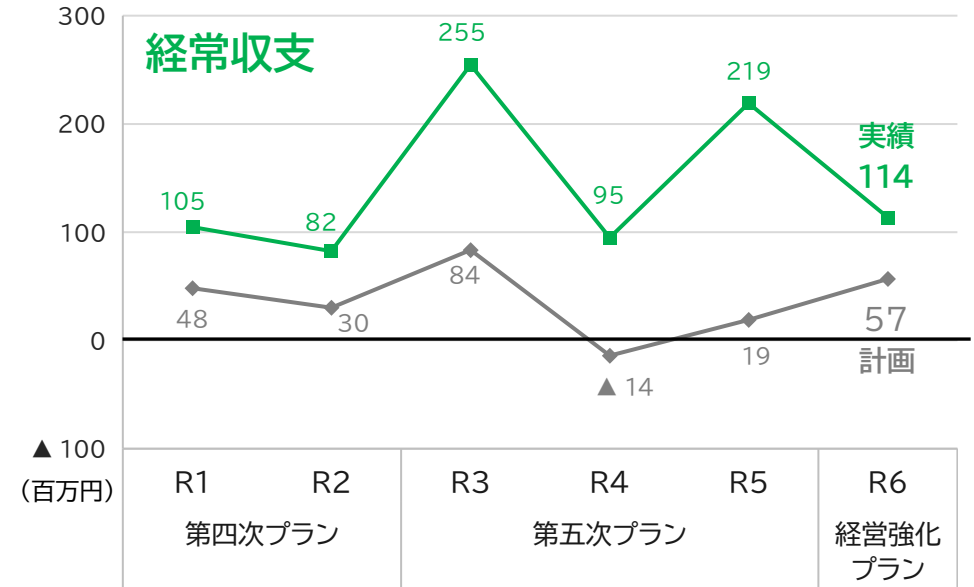
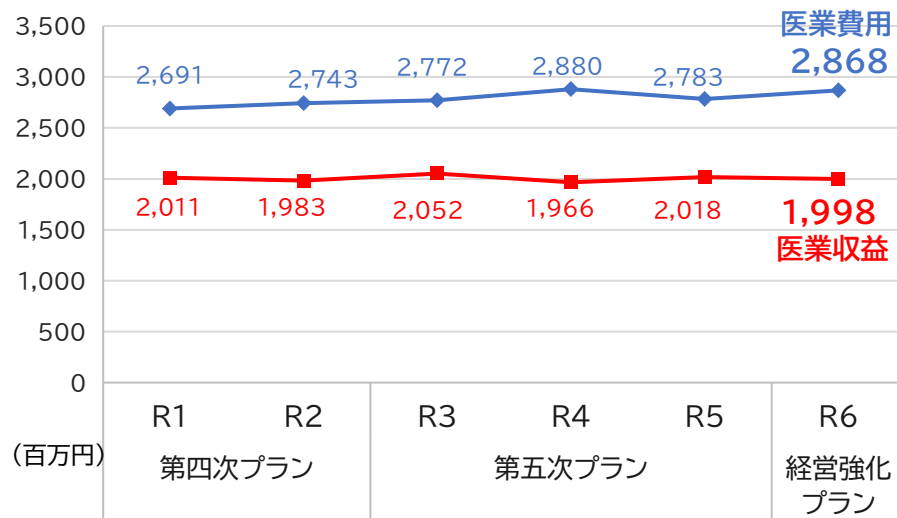
約1億1千4百万円の黒字 (前年度比:▲約1億5百万円)
 プランとの比較 約5千7百万円の上乗せ達成

医業収支

約8億7千百万円の赤字(前年度比:▲約1億6百万円)
 プランとの比較 約3千万円の未達

・R6年度はR5年度に比べ、医業収益の減少のほか、補助金の減など収益が縮小した一方、人件費増や物価高により費用が増加したが、当期純利益を確保できた。

<参考> 医業収益・医業費用



群馬県県立病院経営強化プラン(令和6年度)の取組状況(精神医療センター)

2. 入院収益・外来収益・患者数の推移

入院収益 約17億3千万円
(前年度比: ▲約3百万円)

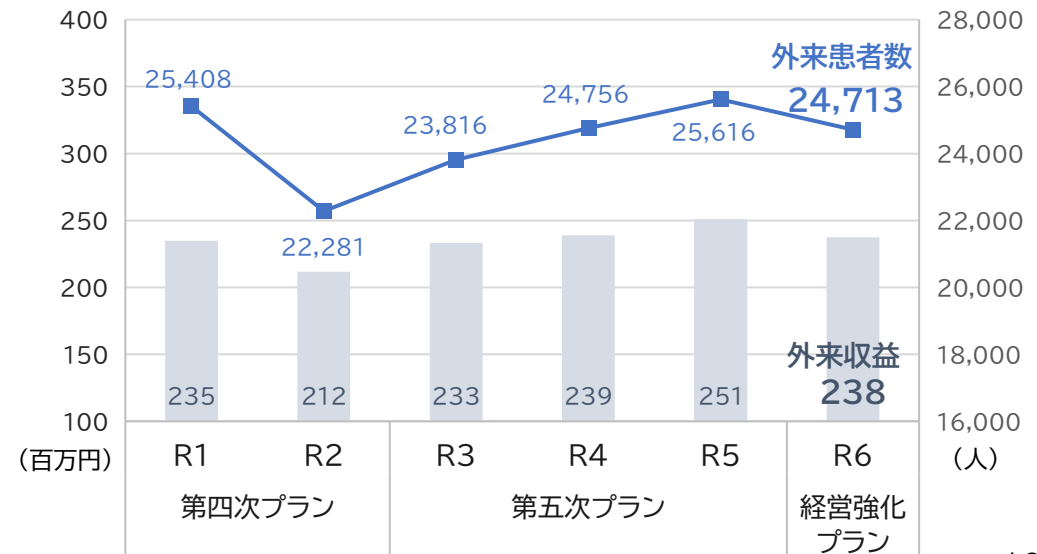
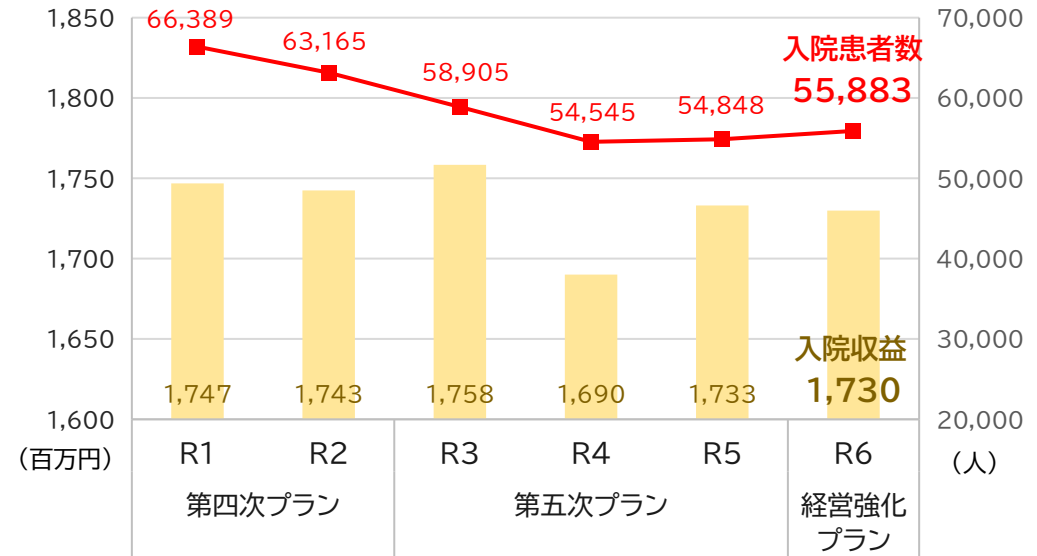
入院患者数 55,883人
(前年度比: +1,035人)

・R6年度はR5年度に比べ、入院患者数は増加したが、入院単価が下落(救急治療病棟・医療観察法病棟の患者数が減少)したため、入院収益は減少(微減)となった。

外来収益 約2億3千8百万円
(前年度比: ▲約1千3百万円)

外来患者数 24,713人
(前年度比: ▲903人)

・R6年度はR5年度に比べ、外来患者数は減少し、外来収益は減少した(近年の患者数増加の反動減・営業日数がR5よりも1日少ない・デイケアの延利用者数の減が主な要因)。



群馬県立病院経営強化プラン 令和6年度進捗管理〈精神医療センター〉

1. 県立病院としての機能強化

課題	アクションプラン	KPI(主な数値目標)		実績		達成状況	取組結果
新興感染症に備えた平時からの取組	新興感染症の感染拡大に備えた取組						<ul style="list-style-type: none"> ●新興感染症の感染拡大に備えた取組 <ul style="list-style-type: none"> ・病床整備（旧A病棟をいつでも稼働できるような状態に維持） ・BCP策定（現在策定中） ・関係機関との連絡会議（感染対策向上加算で連携している県立がんセンターとの合同カンファレンス（2024年5月27日・10月28日）や新興感染症に関する訓練（2024年11月16日）に参加） ●災害発生に備えた取組 <ul style="list-style-type: none"> ・D P A T先遣隊の保有及び有事に備えるため研修及び訓練へプレイヤー、コントローラー双方から参加 ・厚生労働省による大規模災害時医療活動訓練への参加 ・院内火災に備えた防火防災訓練の実施（第1回を10月23日実施、第2回を2月20日に実施）
危機管理力の強化	災害発生に備えた取組						
「群馬モデル」の適切な運用		精神科救急病棟延患者数	27,375人	実績	27,175人	概ね達成	
				進捗率	99.3%		
県内精神科の動向やニーズの見極め 果たすべき役割・機能の明確化・最適化		紹介率	43.0%	実績	39.5%	概ね達成	
				達成率	91.9%		
		逆紹介率	97.0%	実績	112.9%	達成	
				達成率	116.4%		
地域の関係機関と連携した包括的な支援体制の構築		アウトリーチ実施回数	40回	実績	59回	達成	
				進捗率	147.5%		
権利擁護の徹底		身体拘束実施率	1.4%	実績	2.0%	未達成	
				抑制率	68.6%		

2. 群馬の医療を担う人材の確保と育成

課題	アクションプラン	KPI(主な数値目標)		実績		達成状況	取組結果
先駆的取組の効果的な発信	HP等閲覧数増加のための取組	HP等アクセス数	24,000回	実績	110,230回	達成	<ul style="list-style-type: none"> ●HP等閲覧数増加のための取組 <ul style="list-style-type: none"> ・コンテンツの作成、更なる充実
				進捗率	459.3%		
効果的な情報発信による認知度の向上	説明会・合同ガイダンス等実施	専攻医受入人数	2人	実績	2人	達成	
				達成率	100.0%		
		看護実習生受入人数	277人	実績	272人	概ね達成	
				達成率	98.2%		
働き方改革への対応						<ul style="list-style-type: none"> ○医師 <ul style="list-style-type: none"> ・群馬大学との情報交換、希望者への病院見学を随時実施 ・9月に医局説明会実施 ・10月から後期臨床研修病院あて専攻医募集を周知するとともに、当院HPに募集案内掲載 ○看護師 <ul style="list-style-type: none"> ・病院説明会、インターンシップを複数回実施した。 ・感染対策を行い、対面での説明会を積極的に活用した。 ・経営戦略課と4病院とで連携し、上武大学で開催された病院説明会（4月）に、担当として参加した。 	
DXの推進							

群馬県立病院経営強化プラン 令和6年度進捗管理<精神医療センター>

3. 健全な経営

課題	アクションプラン	KPI(主な数値目標)		実績		達成状況	取組結果
県内精神科患者の動向やニーズの見極め 必要となる病院機能の選択や病棟運営の更なる効率化	新規入院患者確保のための取組	新規入院患者数	555 人	実績	506人	概ね達成	●新規入院患者確保のための取組 ・新規患者の掘り起こしや適切な病床管理 現状では入院患者の増加が見込み難いため、令和4年度より医局と相談して外来の新患枠を増やし、通院患者の増による入院患者の増を視野に入れながらも、地域との連携及び外来患者への支援を強くすることで、他院や地域機関から相談が増えることによる患者数の確保を見込んでいけるようにする。そのために、アウトリーチの強化や他院の困難事例に対する相談に対応している。
				進捗率	91.2%		
		病床利用率	80 %	実績	80.6%	達成	
				達成率	100.8%		
更なる経費節減		電気使用量	3,077,549 kWh	実績	3,268,978kWh	概ね達成	
				達成率	94.1%		
		院内会議ペーパーレス化	20 %	実績	4.2%	未達成	
				達成率	21.1%		

4. 新たに挑戦するもの

項目	プラン説明文	進捗状況
アウトリーチ医療の更なる充実	当院退院者、外来通院者が体調悪化により治療中断などになった際に、多職種による訪問・相談により積極的に患者にアプローチし、問題解決を図ります。	・副院長をはじめとした多職種によるチームを編成し、治療中断例や症状増悪例へのアプローチを実施。退院者の再入院等を防ぐとともに、地域定着を促進している。
「WRAP」(患者主体のプログラム)の運営	患者が治療の主体となる新時代型の医療へと舵を切るため、ファシリテーターを複数養成し、患者自身による元気回復行動プランの作成を支援し、実践していきます。	・当事者でもある外部ファシリテーターを活用し、今年度全15回のところ7回を実施した。 ・看護部ではすでに3名がWRAPファシリテーターの研修に参加している。今年度は医療観察病棟専任の心理士が研修に参加し、医療観察法病棟を中心に同プログラムの院内浸透を図っている。 ・当事者主体の活動の一般医療拡大の企画を作成した。
児童・思春期の患者への対応強化	児童・思春期から青年期は多動障害や情緒障害など特有の精神疾患が出現する時期です。専門性向上により、更なる対応強化を図ります。	・毎週1回、専門外来を設置し対応にあっている。必要に応じて入院治療を行っている。 ・令和4年6月から、思春期ショートケアを開設。 ・新規外来は増加傾向である。
依存症治療の強化	ゲーム・ネット依存も含め、集団プログラムの実施など依存症治療の強化を図ります。	・毎週1回、専門外来を設置し対応にあっており、対応件数は増加し、安定傾向である。
権利擁護の徹底	身体拘束ゼロを目指し、行動制限最小化に取り組みます。また、患者の意思決定・意思表示を最大限尊重し、虐待防止の徹底を図ります。	入院中の患者にかかわる行動制限の最小化を図る。 ・「身体拘束最小化」を実現した松沢病院の方法とプロセスを全公開の書籍を各部署に配布。 ・拘束に対し早期解除に向けた検討の促進。 ・行動制限最小化に向けた取り組みと促進。(携帯電話の利用等) ・患者の意思決定・意思表示を最大限尊重 ・虐待防止活動への促進。
災害拠点精神科病院の指定	過去の大地震の経験を踏まえ、災害時に精神科医療を提供する上で、中心的な役割を担う「災害拠点精神科病院」の整備が進められており、県内精神科医療の砦として県内初の指定を目指します。	・令和6年4月1日付で災害拠点精神科病院の指定を受けた。 ・災害発生時は災害拠点精神科病院としての機能を発揮し、群馬県及び近隣地域において他の精神科病院が罹災した場合は、支援や患者等受入体制の構築、また関係機関との連絡調整等を図り精神科医療及び精神保健活動が停滞することの無いよう活動する。 また、他地域にて被災が発生した場合は当該地域の要請によりDPAT先遣隊を派遣し、精神科医療及び精神保健活動の支援を行う。 ・資質向上のため、県外のDPATインストラクターを招き災害対応研修を実施したほか、伊勢崎医療圏の災害対応訓練、関東広域DMAT訓練へ参加した。

群馬県県立病院経営強化プラン(令和6年度)の取組状況(小児医療センター)

1. 経常収支・医業収支の推移

経常収支

約4億7千3百万円の赤字 (前年度比:▲約2億9千万円)

プランとの比較 約3億8千4百万円の未達

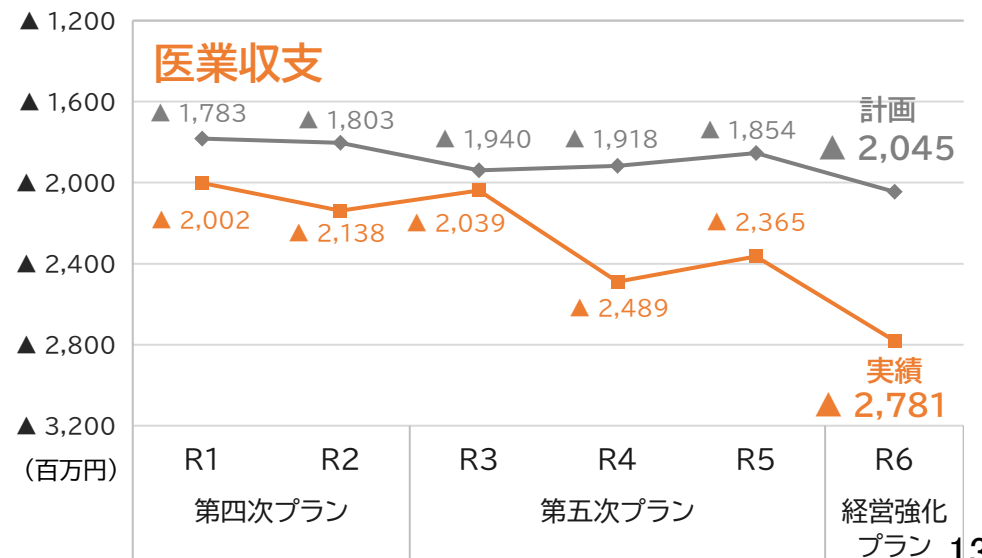
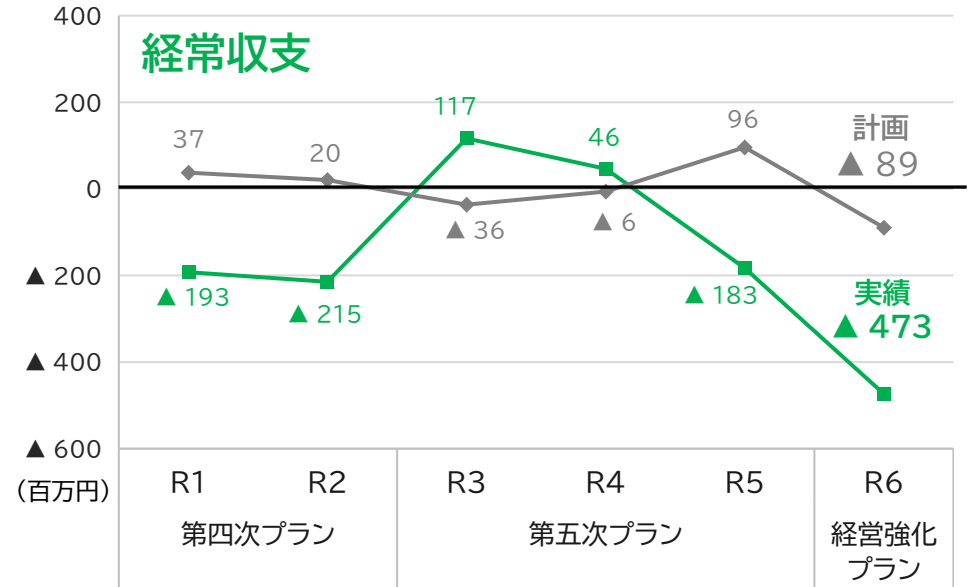
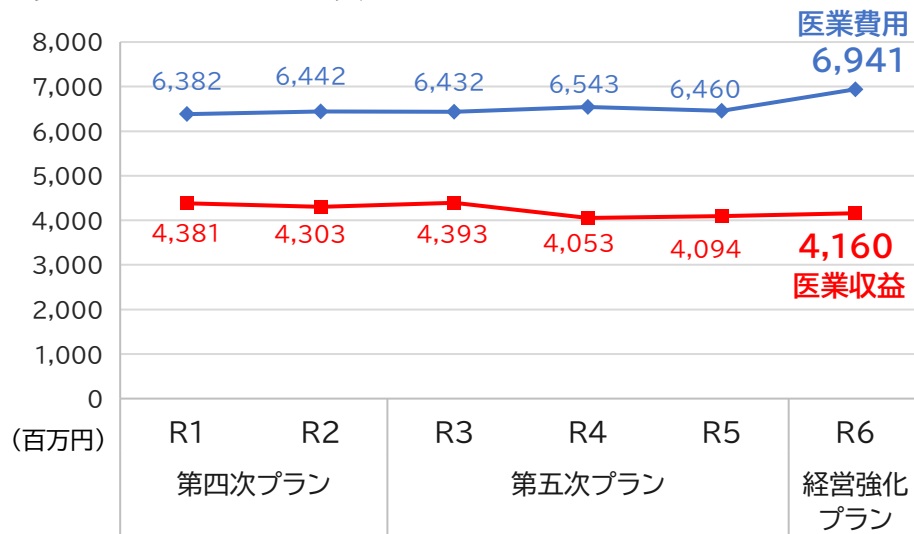
医業収支

約27億8千百万円の赤字(前年度比:▲約4億1千6百万円)

プランとの比較 約7億3千6百万円の未達

- R6年度はR5年度に比べ、外来患者数の増加等により医業収益はやや増加したが、給与費など医業費用が大きく増加した。それによって、経常収支は2年連続の赤字となり、R5年度より悪化した。

<参考> 医業収益・医業費用



群馬県県立病院経営強化プラン(令和6年度)の取組状況(小児医療センター)

2. 入院収益・外来収益・患者数の推移

入院収益 約31億6千2百万円
(前年度比: ▲約3千6百万円)

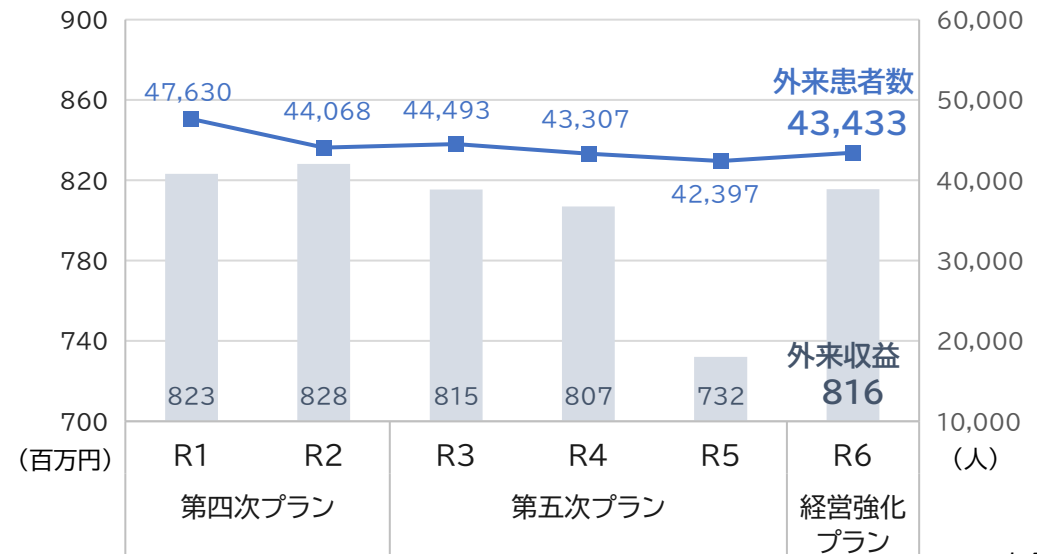
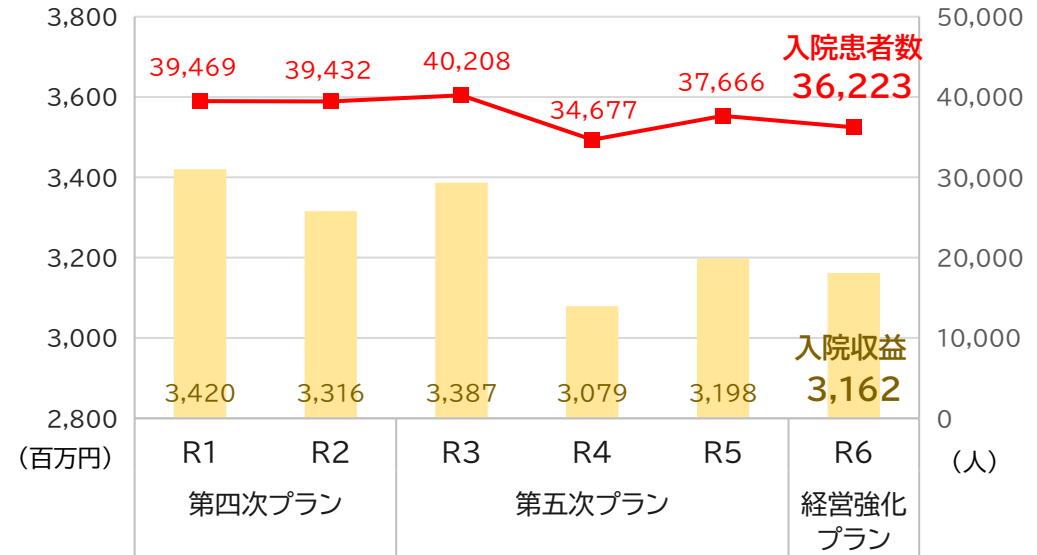
入院患者数 36,223人
(前年度比: ▲1,443人)

- R6年度はR5年度に比べて平均在院日数が短くなり、延べ入院患者数が減少した。また、診療報酬改定によりNICUの区分が下がったことも影響し、入院収益は減少した。

外来収益 約8億1千6百万円
(前年度比: +約8千4百万円)

外来患者数 43,433人
(前年度比: +1,036人)

- R6年度はR5年度に比べ、医師や作業療法士が増員となったことや、手術件数が増えたことなどが影響し、延べ外来患者数及び外来収益が増加した。



群馬県立病院経営強化プラン 令和6年度進捗管理〈小児医療センター〉

1. 県立病院としての機能強化

課題	アクションプラン	KPI(主な数値目標)		実績		達成状況	取組結果
地域の病院や診療所等との密接な連携及び患者や家族に寄り添ったケア	院内再整備へ向けた体勢整備	登録医数	330人	実績	323人	概ね達成	<ul style="list-style-type: none"> 登録医制度を推進し、患者の紹介・逆紹介に積極的に取り組んだ。 クリニカルパスの作成により、質の高い医療の提供に向けた取り組みを実施した。 在宅療養支援については、対象者に対して退院支援計画を作成し、入退院支援を行った。 医療の安全性を高めるため、Team STEPPS®のツールを活用しチームワークを高められるようTeam STEPPSの定着を目指す活動を行った。 令和5年度は、手指衛生他者評価遵守率は38.8%であったが、リンクナース委員会で各部署ごとに手指衛生を遵守できない問題点を分析し、問題解決のための取り組み活動を実施した結果、手指衛生他者評価遵守率は69.4%に向上した。
				達成率	97.9%		
		クリニカルパス導入疾患数	5件	実績	9件	達成	
				進捗率	180.0%		
		入退院支援加算3算定件数	133件	実績	134件	達成	
		進捗率	100.8%				
レスパイト入院患者数	110人	実績	106人	概ね達成			
		進捗率	96.4%				
医療サービスや患者サービスの向上のためのデジタル技術の活用		WEB問診を活用した手続数	2件	実績	0件	未達成	
				進捗率	0%		
チームワークの向上と医療安全の強化	医療安全の取組	ヒヤリ・ハット事例におけるコミュニケーション(連携)エラー件数	137件	実績	212件	未達成	
				進捗率	64.6%		
新興感染症への対応 院内感染対策や体制の整備	新興感染症に備えた平時からの取組	手指衛生他者評価遵守率	60%	実績	69.4%	達成	
				進捗率	115.7%		
		ワクチン接種率(百日咳及び髄膜炎菌対象者)		実績			
				進捗率			

2. 群馬の医療を担う人材の確保と育成

課題	アクションプラン	KPI(主な数値目標)		実績		達成状況	取組結果
小児医療を担う人材の確保	若手医師の確保	医学実習生の受入延べ人数	510人	実績	311人	未達成	<ul style="list-style-type: none"> 医学実習生の受入については、十分な感染対策を行った上で、対面での受入を積極的に行った。 看護学生実習は対応が可能な限り積極的に受け入れた。また、インターンシップ及び病院説明会を2回ずつ開催した。 認定審査合格者3名(認定看護管理者・感染管理・がん専門) クリティカル部門認定看護師養成校受験合格1名 放射線課、リハビリテーション課にて実習生を受け入れた。コメディカルスタッフ(臨床検査技師、放射線技師、管理栄養士)は、専門性を高めるための認定資格取得に向け、受験要件となる単位の取得や研修会、学会への参加等を進めた。 医療の安全性を高めるために、院内研修を実施した。
				進捗率	61.0%		
看護師やコメディカルスタッフの専門性の発揮及び人材を育成する体制づくり	看護師やコメディカルスタッフの確保・育成	看護・コメディカル実習生受入延べ人数	1,580人	実績	1,819人	達成	
				進捗率	115.1%		
多職種連携によるチームワークの向上や医療安全の強化	チーム医療の推進	有資格看護師・技師数	12人	実績	11人	概ね達成	
				達成率	91.7%		
		医療安全研修(Safety Plus)年平均受講率	93%	実績	77.9%	概ね達成	
				達成率	83.8%		
働き方改革への取組							

群馬県立病院経営強化プラン 令和6年度進捗管理〈小児医療センター〉

3. 健全な経営

課題	アクションプラン	KPI(主な数値目標)		実績		達成状況	取組結果
入院患者の受入れ及び手術の確実な実施、診療報酬加算の算定強化	医業収益の確保	病床利用率	73.2 %	実績	66.2%	概ね達成	<ul style="list-style-type: none"> ・病床利用率の向上及びPICUの効率的な病床運用を図るため、各病棟の受け入れ体制強化に努めた。 ・診療材料については安価な代替品の導入や、共同購入品への切替を進めた。 ・保守が終了する人工呼吸器を中心に更新を計画しており、今年度は、PICUの呼吸器1台とNICUの呼吸器1台を購入した。
				達成率	90.4%		
		PICU加算算定患者数	1,370 人	実績	1,161人	概ね達成	
				進捗率	84.7%		
		手術件数	790 件	実績	861件	達成	
				進捗率	109.0%		
材料費をはじめとした医業費用の削減	材料費削減の取組	後発医薬品指数	88.2 %	実績	90.6%	達成	
				達成率	102.7%		
		共同購入による診療材料費削減額	22,000 千円	実績	31,868千円	達成	
				進捗率	144.9%		
再整備を見据えた施設設備にかかる費用の抑制	施設設備、医療機器の計画的・効率的な整備及び管理	臨床工学課において集中管理する医療機器の品目数	28 品	実績	28品	達成	
				達成率	100.0%		

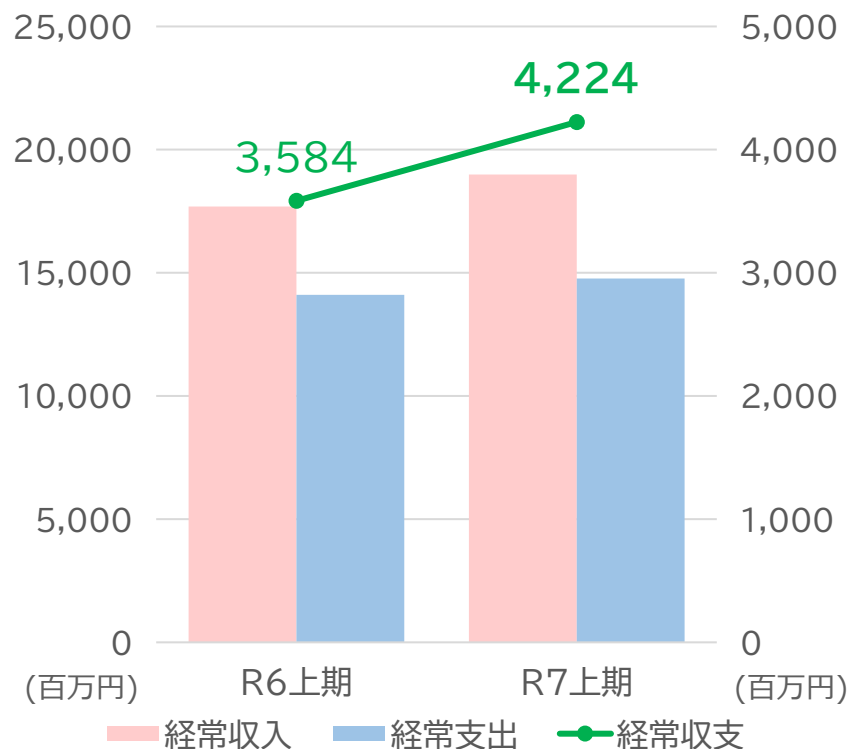
4. 新たに挑戦するもの

項目	プラン説明文	進捗状況
希少疾患等に対する新たな治療法の実施	症例数の少ない疾患の治療に取り組み、新たな治療法の実施にも挑戦していきます。	・新しく先天性疾患のマススクリーニングが拡大したため、拡大に対応できるよう先天性免疫不全等の疾患の診断・治療体制を拡充している。
出生前遺伝学的検査の実施	検査を希望する妊婦に対する出生前遺伝学的検査の実施に取り組みます。	・令和6年度中には医師不足により実現できなかった絨毛検査(採取)を令和7年度中に実施可能とする予定である。 ・NIPTとコンバインド検査(OSCAR検査)について委託検査機関を変更した。その結果、判定期間が大幅に短縮し対象疾患も拡大した(NIPT/OSCAR検査ともに判定期間は2週間→3~7日、OSCAR検査対象疾患が2疾患→3疾患)。更に価格改定もあり、遺伝カウンセリングおよび検査希望の受診者が増加した。
臓器提供の実施体制の整備	臓器提供事例の発生に備えたマニュアル作成などの院内体制整備に取り組みます。	・他県の施設と連携して、移植対応の協力体制を取り準備を進める臓器提供施設連携体制構築事業を行った。また、他県の連携群と定期的に情報交換し、臓器提供時のバックアップ体制や医師派遣体制などの準備を行った。

群馬県県立病院経営強化プラン(令和7年度上期)の進捗について (経常収支)

資料3

令和7年度 上期実績	心 血	が ん	精 神	小 児	合計(税抜き) ※経営戦略課含む
経常収益	5,613,004	6,780,168	1,955,880	4,594,168	18,987,607
経常費用	4,621,890	5,784,958	1,224,935	3,036,660	14,763,809
経常収支	991,114	995,210	730,961	1,557,500	4,223,806
(前年同期)	(862,500)	(801,333)	(720,305)	(1,282,202)	(3,584,412)



経常収支(令和7年度上期)

約42億2千4百万円の黒字
(前年同期比: +約6億3千9百万円)

➤ 医業収益の増を上回る医業費用の増となったが、医業外収益（一般会計繰入金）が増額となり経常収支は改善

群馬県県立病院経営強化プラン(令和7年度上期)の進捗について (医業収支)

令和7年度 上期実績	心 血	が ん	精 神	小 児	合計(税抜き) ※経営戦略課含む
医業収益	4,449,130	5,510,686	1,015,535	2,121,864	13,097,215
医業費用	4,529,481	5,718,158	1,214,554	2,966,348	14,523,844
医業収支	▲ 80,351	▲ 207,472	▲ 199,019	▲ 844,484	▲ 1,426,629
(前年同期)	(33,067)	(▲142,578)	(▲162,678)	(▲851,076)	(▲1,215,607)



群馬県県立病院経営強化プラン(令和7年度上期)の進捗について

(入院・外来収益)

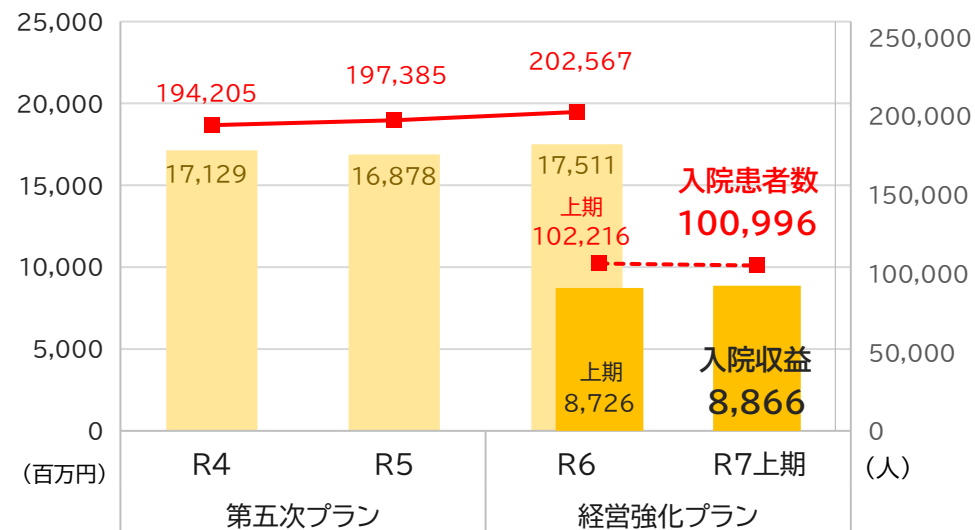
入院収益

約88億6千6百万円
(前年同期比: +約1億4千万円)

入院患者数

100,996人(前年同期比: ▲1,220人)

- 前年同期と比べ入院患者数は減少したが、1人あたり診療単価の増により入院収益は増加
- 入院患者数は、前年同期と比べ小児医療センターのみが増加



外来収益

約38億8千5百万円
(前年同期比: +約2億5千百万円)

外来患者数

113,910人 (前年同期比: ▲1,835人)

- 前年同期と比べ外来患者数は減少したが、1人あたり診療単価の増により外来収益は増加
- 外来患者数は精神医療センター及び小児医療センターで増加

